

---

# 外宇宙世紀ジェネレーション

楽しんでます

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

外宇宙世紀ジェネレーション

### 【Nコード】

N7551W

### 【作者名】

楽しんでます

### 【あらすじ】

人類が外宇宙で暮らす様になつたGジェネレーションの世界。

ゼータプラスに憧れる少年パイロット候補生のマリクやがて彼は大規模な戦いに巻き込まれていく……

少しずつですが手直しをしていきます。

## プロローグ（前書き）

外宇宙の世界のGジェネレーション作品を書きました。

誤字を修正しました。

## プロローグ

### プロローグSide

全人類が宇宙<sup>そら</sup>に出てかなりの年月が流れた……そして遂に彼等は、母なる地球圏を離れ外宇宙へと旅立った。

人々は外宇宙を新たな生活圏としていたそして、星間国家連合体銀河連邦を樹立した。

外宇宙世紀元年既に地球は過去の存在となり、人々の記憶からも遠い存在に成りつつあった……

外宇宙世紀160年初頭、辺境の惑星を端に発した独立運動はやがて武力紛争へと発展しその様相まるで、ジオン独立戦争を思い起さす……そう人々外宇宙に進出しては変わらなかった……、。

そして外宇宙世紀180年……20年の戦乱を経て世界は、偽りの安息と安らぎを手に入れていた。

ルトアニア連邦第73植民星「アデラ」

第66パトロール艦隊

「たつく……今日も宇宙のお星様眺めるだけかよっ。」

「ばやくな、俺だって……彼女とのデートがおじゃんだぜ。」

退屈な任務の為か、クルー達の気は緩みがちだ、その時艦長の怒鳴り声上がる。

「貴様らっ、いくら平穩でも気がたるみすぎだ！」

「も、申し訳ありません艦長っ。」

いくらルトアニア連邦が先の戦いに参戦しなかったとはいえ、星系各地でもはや化石クラスの思想が復活してきている。

例えば

過激な選民思想にすり替えられたジオニズム……地球至上主義……  
コスモ貴族主義等が挙げられる。

特にザビ家よりのジオニズムは危険視がされている……

（人類の革新……確かに外宇宙に出る事によって、人類は新たなステージに立った……しかし……）

いきなりオペレーターの声に艦長の思考は現実に戻される。

「ミノフスキー粒子の濃度が戦闘濃度までに上昇しました！」

「な、何だよつ、ミノフスキー粒子で大昔じゃああるまいし？」

「しゃべる暇が有るなら、対空監視を強化せよ！」

全員が神経を研ぎ澄ませブリッジ内は静まりかえる……その時僚艦が、真上からのビーム攻撃でVの字型に折れ曲がり爆散する！

巨大な人型の影が近づく誰もが我が目を疑う……

「まさか……この機体は。」

「……亡霊」

次の瞬間ブリッジは、マシンガンの攻撃で蜂の巣になった……

「隊長、敵パトロール艦隊の全滅を確認しました。」

「流石は……名つての傭兵だな。」

パトロール艦を一撃で仕留めた、黒い「カブスレイ」のパイロット

に話し掛ける。

「まあね、それより今日のギャラを貰いたいんだけど？」

ものおじせずに、商談を持ち掛けるパイロットの声は幼さの残る少年のものだった。

「で幾ら欲しいだ？」

「とりあえずアジトに着いてから言っよ。」

やがて一隻の宇宙巡洋艦が彼等の回収にくる。

襲撃事件から三日目後

第154戦技教導隊所属クラブ級巡洋艦「モンタナ」

マリクSide

シャトルを降りて格納デッキに立つ、これから僕は憧れのモビルスーツパイロットになるそして、いつかあのゼータプラスに乗るんだ！

そう……グリプス戦争で伝説になったガンダムシリーズ初の可変式モビルスーツ……その後量産プランは一部見送られたが……幾つかのプランの再検討又は既に量産プランに載った機体も有る、その一つがゼータプラスだ、今はまだ数が少ないが必ずあの機体に乗るのが僕の夢だ。

「ちょっとキミ……パイロット候補生？」

不意に声を掛けられた、振り返るとそこには、作業着姿の水色の髪の毛の子が立っていた。

「はい、マリク・スレッドと言います！」

「ふうん、中々良い顔してるねキミ？」

ひよっとして新米いびりか？たまに話に聞くけど……しかし彼女からはそんな悪意は感じられない、どちらかと言えば、相手を観察する目だな。

その時野太い声が聞こえる。

「カレインっ何をしている早く、機体の整備に戻れ！」

「はい班長すぐに整備に戻ります。」

彼女は素早くジェガンの整備に掛かる……豪快な感じの黒髪の男の人が来る。

「すまねえな……坊主それより真っ先にこの艦のお偉いさんの所に挨拶にいきな。」



お偉い……さん多分艦長だろう、でも何処に行けば良いのか判らない。

「まあ、初めてじゃあ仕方ねえな……とちよつど良い奴が来たぜ」

「ガレスさん……人をパシリと思ってません？」

現れたのは、上級士官の制服を纏った青年士官だった。

「マリク・スレッドパイロット候補生です。」

「当艦モンタナによつこそ、フェリオ・ファルゼス中尉です」

蒼い髪の毛に鋭い目つき青年士官後に【蒼い閃光】と呼ばれるエースとの初めての邂逅だった……

## プロローグ（後書き）

次回執筆頑張ります。

誤字を修正しました。

## プロフィールNo.1(前書き)

主要キャラ紹介です。

一部設定を変更しました。

## プロフィールNo.1

マリク・スレッド準尉

外見（RPGイースのアドルを参考）

性別：男

年齢：18歳

髪の色：赤毛

瞳：青

口調：ボク

趣味

運動と読書

好きな物

変形モビルスーツ

嫌いな物

人の欠点をあれこれ言う奴

ライル・バルトール

外見（ファンタシースターポータブル2インフィニティ種族デフォルトのヒーマンの男性キャラを参考）

年齢16歳

性別：男

髪の色：銀髪

瞳：赤

口調：オレ

趣味

愛機の改造

嫌いな物

マリク

ディアナ・フェルトミナ

外見（赤セイバーを参考）

年齢17歳

髪の色：金髪

瞳：青

口調：男っぽいボク

髪の色：金髪

瞳：青

趣味

八口と遊ぶ事

嫌いな物

八口をいじめる奴

## プロフィールNo.1(後書き)

次回頑張って彼を活躍させます。

## 搭乗機はスタークジェガン（前書き）

マリクは初めて実戦を体験します。

タイトル表示を修正しました。

モビルスーツ戦が上手く表現出来たと思います。

モビルスーツの説明が不十分なので少しずつ編集します。

章のタイトル表示を修正しました。



## 搭乗機はスタークジェガン

マリクSide

艦長室に通された、中ではパイロット候補生二人の他に、上級士官の女性が一人いた。

艦長らしい女性がフェリオ中尉に話しかける。

「フェリオ中尉、スレッドパイロット候補生の案内ご苦労様でした。」

「いえ艦長、ちょうどガレス整備主任に用事があつて、格納庫に向かったら偶然彼と会いました。」

わ、忘れてたーっ、パイロット候補生は、艦長室に出頭しろて言われてたの……ついジェガンタイプや……トルネードガンダム……フェニックス・ゼロに見取れて……大事な事を忘れてしまった。

「ジェガンタイプは旧地球連邦軍の主力MSで約30年主力を務めた旧地球連邦軍最高の量産MSだ、バランスの取れた機体でボクの好みの機体の一つだ。」

「トルネードガンダムはとあるガンダム開発計画で採用されたMSだ同時期に開発されたフェニックス・ゼロより性能見劣りするが悪い機体ではない。」

「／／／。申し訳ありませんでした艦長……そしてフェリオ中尉」  
頭を下げてその場にいる皆に謝る、艦長や皆は苦笑しながらも許してくれた……次は気をつけよう。

「では、改めて自己紹介をします、演習艦モンタナの艦長を勤めているイリア・ファルゼス大尉です。」

「君達の隊長兼教官のフェリオ・ファルゼス中尉だよろしく」

「オレは君と同じパイロット候補生のルーク・ケネスだ、ガンダム乗り目指して頑張ろうぜ、よろしくな。」

「私はルナ・フェンリルよ、よろしくマリク君」

「パイロット候補生のマリク・スレッドです、まだ至らぬ所ありますがよろしくお願いします。」

ルークは緑の髪に紅い瞳歳はボクと同一年位か、ルナは赤毛のポニテールで瞳は青い歳はボクより年上かな。

挨拶も終わった所で、フェリオ隊長がボク達に話しかける。

「さて、皆の乗る機体だが、ルークはヘビーガンだルナはSTガンだ二人とも良いな？」

「ヘビーガン……小型の主力モビルスーツですね？」

「何だ不満か？」

ルークはヘビーガンと聞いて何だか嬉しそうだ。

「いえ、大型モビルスーツの懐や死角に回り込むのに最適の素晴らしい機体です。」

『ヘビーガンはMSの小型化を重視して設計された量産方MSで、GM形の最終体系に当たる機体だ、大きな戦乱が無かったのと軍事予算がふくらみ経済が悪化した為性能を落とす事無くコストパフォーマンスの良い機体が求められた、そこで持ち上がったのがMSの小型化だヘビーガンは旧球連邦軍のジェガンタイプに替わりザンスカール戦争まで主力MSをつとめた。』

「よかったね、ルーク好みの素早い戦い形の機体で。」

ルナは我が事のように喜んでいる。

「アタシは偵察機か……つまり目と耳ね。」

『STガンはジェガン系の偵察機だセンサーの強化をして偵察能力を上げているこの時代では武装が100ミリマシンガン一丁と武装が貧弱な為ジェネレータを換装して、大型のビームライフルとビームサーベルを装備していた。』

ルナは真剣に考え込んでいる。

「余り気負う必要は無いわ、自分の与えられた事をやり遂げなさ

い。」

イリア艦長が助け船を出す。

「はい、ありがとうございます艦長、私頑張ります。」

「最後にマリク君はスタークジエガンだ、強襲型の癖のある機体だ  
が出来るな？」

「はい必ず使いこなします！」

『スタークジエガン砲撃支援機として設計されたがバツクパツクの  
強化と追加装甲を加えて今は高機動の強襲型になった機体だ、スタ  
ークジエガンのプロトタイプは完全に砲撃支援機だった為、後に改  
良を加えて今のタイプに変わった。』

「ではこれより訓練にかかる、さっそく準備にかかれ！」

「」「はい！」「」

ボク達は艦長室を敬礼して退出する。

三人が退出した後

イリアSide

「ゼナン大佐も苦勞されてるわね……フェリオ？」

暗い表情でイリアが話し掛ける……

「そうだね……姉さん所でマリク君は、ニュータイプと僕は予想するけど？」

ニュータイプ人類が宇宙<sup>そら</sup>に出て意識が飛躍的に拡大したものの達の総称……過去の戦争において彼等は戦闘兵器以上の価値で見られた事もあり……今でも軍事利用の声も聞こえる。

「フェリオ……貴方マリク君に何か感じ取ったの？」

思わず聞いてしまった、私はニュータイプでは無い、オールドタイプだ……しかし弟のフェリオはニュータイプで一時軍の施設に入れられた事があった。

「うーん、断言出来ないけど……その兆候は有るね。」

「ゼナン大佐はその事を？」

「どうだろ……あの大佐はそこまで黒い人じゃ無いよ。」

まあ、あの大佐なら苦勞人だからよけいな苦勞もしよい込むのかも知れない。

「じゃ僕は雛達を育てて来る……」

「分かったわ気をつけてね。」

フェリオは敬礼をして部屋を退出する……私はため息を吐いた……  
こんなに疲れたのは久しぶりだ……

ディアナSide

たつく……しつこい、本当にしつこい……ボクの後ろに、高機動型  
ザクが追いかけて来る、ボクの機体は改良型のツダなのに……

『高機動型ザク旧ジオン公国がザクを高機動型改良に改良した機体  
だ、一年戦争末期に大型バックパックを装備し機動性を確保に成功  
したが、パイロットを選ぶ機体になった。』

「ハロ、機体を反転させて反撃するからサポート、お願い！」

「リョウカイ、ガンバレ、ディアナ。」

機体を素早く後ろに向けると、ザク・マシンガン を発砲する！  
機の高機動型ザクを蜂の巣にする。

『ツダは一年戦争開戦4年前にMS05ザクとの開発競争の際空中

分解事故を引き起こし、軍の正式採用が見送られた機体だ、彼女の乗っている機体はツダの改良型だ、色も彼女好みの紅色あかに塗っている、本来は青色のカラーである。』

「ディアナ、ウエにテキ接近チュウ」

エンジンを全開にして、攻撃をかわす、素早くザクに近づくと、シールドピックでコックピットを貫く！

『シールドピックはシールドに収納された突起状の槍だ、シュツルムファウストは棒の先にロケット弾を火薬で飛ばす武器だ、ザクマシガンは120ミリの砲弾を速射で発射する巨大なマシンガンである。』

その時、殺気を感じ取り突き刺したザクを弾避けに使う。

「これでも喰らえーっ！」

シュツルムファウストを片腕で発射する、ボクに向かってきたザクは回避が間に合わずに爆散した。

「ディアナ、テキ接近チュウ、ニゲロ、ニゲロ、」

「あーっ、もーっ、サイン会ならアイドルにでも頼んでよーっ。」

今度は厄介だ、リックドムにゲルググにケンプファーに黒い「カブスレイ」だ……

『ドムは一年戦争でヨーロッパ戦線で活躍したジオン地上進攻軍の

主力MSだ熱核エンジンでホバー走行が可能に為った重装甲のMSだ、ごつい外見に似合わず機動性に優れ、旧球連邦軍を苦しめた事から宇宙用に改良されたのがリックドムだ。』

『ゲルググはジオン軍が初めてビーム兵器を採用した機体で、一部の開発者の間ではこの機体の登場が早ければ、ジオンは独立戦争に勝利したと嘆いた、機体だそのゲルググを狙撃型に改良したのがゲルググだ、狙撃用のビームライフルを装備し機動性に優れている。』

『ケンプファーは機動性を生かした強襲用MSで機動性に優れている、武装は主に実弾装備で、シュツルムファウストとショットガンに頭部に60ミリバルカン砲、そしてドムと同じジャイアントバズーカを装備している、格闘戦ではビームサーベルと対艦攻撃用の爆雷を13基繋げたチエーンマインを装備している。』

『カブスレイはジオン掃討を目的に創設された、ティターンズの可変式MSでMA体型でも格闘戦が可能でMAの時は大型クローの他ビーム兵器も使う事が出来る、しかしこの黒い機体は乗っているパイロットに合わせて、カスタマイズされていた、特徴に対艦攻撃用の「メガ・ビームキャノン」を装備している。』

「仕方が無い、連邦軍の演習宙域に逃げ込もう。」

あそこなら隠れるのにつってつけの残骸が山ほど有る、一番向いているのは廃棄コロニーだ。



ルトアニア連邦軍演習宙域

マリクSide

ルークもルナもすごいとしか言葉が無い、ルークは持ち前の機動力を生かして回り込もうとする、ルナは偵察機の特性を生かして、こちらの位置を掴んで狙撃してくる。

「ボクはヒット&amp;ウェイに徹している、ヘビーガンに近づくには、ジェガンタイプは大きいすぎる……STガンに近づくのは自殺行為だ、スナイパー化した偵察機に近づく馬鹿は居ないよ普通は。」

しかしスタークジェガンの機動性を生かし、ルナ機に接近し、ビームサーベルをOFFのままコックピットに押し当てる。

《マリク君……やるわね。》

「ルナ、それじゃあまた後で。」

そう言っつてルナ機から放れる、弱小のビームが掠める！

素早く体勢を整えるとシールドを構え、ルーク機に目掛け反撃する、しかしルーク機は最新機のヘビーガンの特性詰まり小回りを生かしてこちらの攻撃を全てかわす。

( もう少し集中しろ……マリク……落ち着いて、ルーク機を見るんだ。 )

すると……ルークのヘビーガンの動きが鈍く……いやスローモーシヨンの用に見える。

( 疲れて……いるのか？いやまずは訓練をやり遂げよう。 )

照準を絞ってトリガーを引く、そしてルーク機の撃墜判定が出た。

《マリク君やったね》

《悔しいけど……俺の負けだな、おめでとうマリク。》

( 本当にボクが勝ったの……か？ )

慌てて各センサーやシステムそれにモニターをチェックする……しかし異常は見当たらない……

< チツ……このままじゃ、やられる。 >

< アキラメルナ……ディアナ。 >

「二人とも、今何か言った？」

《な、何よ……突然？》

《俺は……何も言っていないぞ。》

たしかに……「声」が聴こえた……宇宙そらなんかで声が聴こえるとしたら……通信位しかない！

通信の周波数を合わせてみるが異常は無い、宇宙でオカルトなんて冗談きついで。

<ハロ！救難信号弾撃つて！>

<シンゴウ弾ハッシャ>

「声」のする方向を向くすると、救難信号弾の閃光が見えた！

「ルナーっ！モンタナに通信して、救難信号弾を確認増援を求む！」

（ボクのせいだ……また人が死ぬのは。）

「ルークはルナ機の護衛に付いて、絶対にルナ機から放れるなっ。」

《お、おいマリク》

《た、大変です！モンタナ応答》

周波数を全周波に変えて、所属不明機に通信を入れる。

「聴こえますか？こちらはルトアニア連邦軍演習艦隊です、直ちに戦闘行為を停止」

その直後ビーム弾が掠める。

「演習モードから実弾に切替と……良しっど。」

実弾兵装は模擬弾だが、それでもハツタリになるし上手く使えば、モニターを潰せる（ペイント弾をモノアイに撃ち込む。）

《そこのジエガン！キミ一人か？》

「え……そうだけど。」

目の前の紅いツダから通信が入ったので返答したら……

《馬鹿者ーっ、単機で来る奴がいるかーっ、フツーっ》

いきなり馬鹿は無いだろ……むつと為りかけてたら、急に襲い掛かってきたリックドムの攻撃をかわしてビームサーベルで切り掛かり動力部を破壊する、背後に殺気を感じ取って振り返りシールドで、マシンガンの弾を防ぎシオルダーのミサイルをモノアイに命中させる。

紅いツダがザクマシンガンで、ゲルググのマシンガンを破壊する。

《気をつけるっ、イエーガー（スナイパー）がいる！》

真上にゲルググがボクを狙っていた、向こうが発砲する前にいきなり爆発する。

《マリク無事か！？》

《よし、まずは一機目》

へビーガンとSTガン？どうして此处に、と思っていたら、フェニ

ツクス・ゼロが現れる残りのリックドムにメガビームキャノンを発射する。

リックドムはメガビームキャノンを回避出来ずに撃ち落とされた。

フェニックス・ゼロにケンプファーが襲い掛かって行く、激しい切り合いで、上半身と下半身を切られケンプファーは爆散する。

その時今までに無い殺気を感じ取り回避する、辺りの残骸をメガビームキャノンが薙ぎ払う。

振り向くと……黒い「ガブスレイ」がメガビームキャノンを棄てこちらに接近して来る。

「このーっ当たれーっ！」

牽制でビームライフを撃つ、しかしかわされる、ガブスレイはMAモビルアーマーに変形して僕を狙って来る。

《ツツ……当たれーっ!》

紅いツダがリックドムの残骸から奪ったジャイアントバズーカを、ガブスレイに放つ。

《邪魔すんなーっ。》

避けながらショルダーのビーム砲をツダに放つが、かわされる。

ガブスレイが人型に変形して襲い掛かって来た。

「何なんだよ！」

《この声を聞いても、思い出せないマリク？》

「ライル？か君は……」

《アハハハ…… 大当たり！》

互いビームサーベルの切り合いをする。

《まあ残り少ないから…… 一気に殺す！》

殺気が更に膨らむ、そしてガブスレイのモノアイが紅く不気味に光る。

《エグザム・システム起動……》

くっ…… やるしかないのか…… ボクは身構える、この敵は危険だそう直感した……

**搭乗機はスタークジェガン（後書き）**

次回頑張つて後半何があつたか書きます。

誤字脱字の修正をしました。

描写を変更しました。

## マリクとライル（前書き）

今回マリクとライルの過去に少し触れました。



## マリクとライル

マリクSide

いきなりガブスレイの動きが変わる…エグザムシステム!?まさか…(あの蒼い死に神と言われ、地球の北米大陸でジオンにその異名で恐れたジムの名前…)厄介すぎる。

「エグザムシステムは、ジオンの科学者クルスト・モーゼスによって開発されたニュータイプとの戦闘システムで、あるニュータイプの少女の意識を起動テストの際に起きたトラブルで、彼女の意識を取り込む事故を引き起こす、クルスト博士の目的はニュータイプの殲滅にあった、いずれ彼等ニュータイプが、旧人類即ちオールドタイプを排除するという博士の狂気じみた妄執に捕われ連邦に亡命しジオンのエグザム搭載機イフリート改よりも強力な機体を造る、しかしエグザムは暴走を引き起こす為開発は中止になった。」

ビームサーベルの鋭い突きをかわす…はずだったが左肩のミサイルパックに突き刺さる、頭部のバルカン砲で牽制しながら離脱を…いや外装をパージして身軽になるか。

素早く外装をパージする、ビームサーベルで黒いガブスレイに切り掛かるが、かわされた挙げ句蹴りを喰らう。

「うあああっっっ」

衝撃でコックピット無いが激しく揺れる、ハーネスをしっかり固定していなければ360°モニターに全身をたたき付けられていたは

ずだ。

《ハハハハッ、惨めだよなっ、マリク？》

「ぐっ…なんで、ライル君が？」

ライル・バルトル…ボクの幼なじみだった、少年だ、連邦軍の特  
殊部隊のニュータイプ狩りでボク達は軍の施設に入れられる…ライ  
ルは隙を見て施設から脱走した、ボクはニュータイプ能力は無しと  
判断され…その後施設をほうり出された。

《マリクーっ、一旦下がれ！》

フェリオ中尉のフェニックス・ゼロが助けに来てくれた、その時黒  
いガブスレイの指先が飛び出しボクの乗るスタークジェガンを貫く。

《これでウエンダルになりなよっ、マリクーっ！お前がいなければ、  
俺はあんな所でも頭に成れたんだーっ！！》

凄まじい電撃がコックピットの中で荒れ狂った。

「ぐあああぁっ…」「」

意識がショックで消える、ライル…君…は…。

ディアナSide

目の前でスタークジェガンが動かなくなった、一機のフェニックス・ゼロが黒いガブスレイに、攻撃をする。

《へえ…アンタ、ニュータイプなんだ…。》

《だからどうした…。》

うわ、声は若い男の人ばいけど、ものすごく怖い…その時偵察型のジェガンとヘビーガンが近づいて来る。

《君か？救難信号弾を発射したのは？》

《取りあえず…あの連中のお友達か聞くわね。》

「あんな連中と友達！？冗談じゃないわ、ボクとアイツ等を一緒にしないでよ！」

<ソーダ、ソーダ、イッシュヨニ、スルナーツ。>

ハロまで一緒に抗議してる…それよりあのスタークジェガンのパイロットは…。

「あのスタークジェガンのパイロットは？どうしたの？」

《マリクなら、救助したわ…命に別状は無いって。》

《しかし…あの黒いガブスレイのパイロット…もしかして強化人間か？》

強化人間…その言葉に、哀しみを覚える…薬物や身体を強化して人

工的にニュータイプにする方法だ…ニュータイプは自然に覚醒する…しかし強化人間は人間をモルモットにしてしまうから、ボクはそんなやり方は嫌いだ…。

「薬の力でニュータイプになっても…苦しいだけなのに…、行くよっ、ハロ！」

<ディアナ、ムリスルナ、ディアナ、ガンバレ。>

ツダのエンジンを全開にする、従来のツダならここで花火になっているだろうな。

《お、おーい、たっく俺達も行くぞ、ルナ！》

《え、ええ。》

三機で、フェニックス・ゼロの支援に向かう。

フェリオSide

この異様感じは、強化人間か！？しかしこの黒いガブスレイは…エグザム搭載機…厄介だな…。

激しい切り合いで、こちらも被害が大きくなった、メガビームキャ

ノンが四門の内二門使用不能…ビームガン一丁が潰された。

「しかし…そろそろ、そっちもパワーダウン寸前じゃあないのか？」

《そうだね…此処で俺達は退かせ貰うよ、マリクに次こそ…殺すと伝えてくれる？》

そう言う信号弾を撃つ、あれは…旧ジオンのサンジバル級機動巡洋艦！旧地球連邦のペガサス級と同性能艦だ、しかしこちらもクラップ級が三隻向かって来ている。

《隊長！っ、無事ですかーっ！》

《隊長…すみません、マリクを止められませんでした…。》

《うあ…派手にやられたね…。》

《ヤラレターツ、ヤラレターツ。》

「別に…いや少し危なかったな…。」

て…何でロボットペットにツッコミ入れられるんだ？まさか…旧ジオンの残党とはね、取りあえず紅いツダのパイロットから、少し話を聞くか…。

「よし皆一度モンタナに帰ろ。」

《《了解！！》》

クラブ級巡洋艦「モンタナ」

医務室

??? Side

此処は何処だろう…この風景は…貧民地区…ボクが生まれた街だ…裏通りを歩いて行くと、住んでいた家が見えて来た…。

扉を開けると…家ではなく昔特務部隊に連れて来られた施設の部屋だった…。

（そう言えば、ライルも一緒に連れて来られたんだ…この施設に…）

此処はルトアニア連邦ニュータイプ研究所通称「ネズミ小屋」ニュータイプをモルモットの様に研究する施設だ…。

（マリク…お前は化け物何だよ…お前のお陰で俺は…化け物になれたぜ。）

声のする方向に振り返るとライルがいた…。

（ボクは化け物なんかじゃない！この施設の人達の勘違いで、無理矢理連れて来られたんだ！）

（じあ…俺と勝負しなよ…そうすれば…わかるさ直にお前も化け物の仲間だってね…アハ、アハハハハ、アハハハハッ！）

ひたすら笑い続けるライルに、恐くなって逃げ出そうとする。

目の前に後ろに居た筈のライルが…ボクを取り囲む。

（お前は化け物さ…マリク…俺と同じ怪物さ…。）

（ち、違う…ボクは化け物なんかと…う、うあああっ！）

意識が闇に堕ちる…。

（ボクは…ニュータイプじゃない…ボクは…ボクだ…。）

そう叫ぼうとするが、声は出なかった…。

医務室付近通路

ディアナSide

この艦の艦長やフェリオ隊長には、ボクの事は偽って伝えてる…あま、フリーのモビルスーツ乗りは本当だ…。

ハロも没収されずに済んだし、此処の乗員の人達も良い人達だし取りあえずは、此処で厄介になろう、ボクを助けてくれたスタークジエガンのパイロット、マリク・スレッド…パイロット候補生と聞いてびっくりした、まさか候補生レベルでプロのゲリラとやり合えるなんて…そう考えていたら医務室から、マリクの叫び声が聞こえて来た。

## 医務室

マリクSide

「うあああっっっ」

ベッドから跳ね起きる、全く悪魔だった…手が僅かに震えてる…無理もないさ、初めて実戦を…殺し合いをしたんだ…怖くて当たり前じゃないか…。

「大丈夫か！マリク？」

見知らない女の子が、ライトブルーのハロを連れて医務室に入ってきた。

「おやおや、元気なお嬢さんだ。」



軍医のスミス先生が、苦笑しながら対応する。

その後ボク達は自己紹介をして、話をする…いつの間にか互いの身の上話になった。

その後フェリオ隊長が来て、僕の処罰つまり訓練中に勝手な行動力をした罰で三日間独房入り…怪我はたいした事は無かったが回復を待って、独房入りした、ディアナが抗議したそうだが、その気持ちだけ、ありがたく受け取れる。

独房に入ってる間ゆっくり考える事が出来る…自分の事そしてライルの事だ…。

マリクとライル（後書き）

次回頑張っ て行きます。

## 過去の亡霊（前書き）

今回ディアナの素性をバラシますが物語の進行に問題はありません。

Gジェネのノリで進行してます。

誤字の修正をしました。

## 過去の亡霊

ディアナSide

割り当てられた部屋で、今後の事を考える……それにしても、厄介な血筋の家系に生まれた……両親は良い親だった……幼い時に母が死んで、父に育てられた……厳しく優しい人だ……その父も原因不明の事故死（不審な事が有り過ぎる）……ボクは働く為に仕事探した……父さんに教えて貰ってMSの操縦が出来たので気がつけば、フリーの傭兵になっていた……

「まあ……MSの操縦が出来るなんて思わなかったな……」

<ハロ、ハロ、ディアナ、ゲンキダセ>

ふふふ……思わず苦笑するハロにまで心配かけてわパートナーとして失格だ……

「ありがとう……ハロ。」

少し泣きそうになったその時警報のアラームが鳴り響く。

《民間輸送船団より、緊急入電、ジオン残党軍と思われる、海賊の襲撃を受けてるとの事、至急MSパイロットは格納デッキへ、繰り返し……》

ボク達も部屋を飛び出し格納デッキへ向かう、既に何機かのMSは出撃してる。

カレンさんを見つけて声を掛ける。

「カレンさん、ボクのツダの整備は？」

「ディアナ、君まで出るの？うん今終わったよ、ただしザクマシンガンの弾は、無いから代わりにジムライフルを使つて。」

『ジムライフルは、エース向きに開発された、ジム・カスタムの主武装だ90ミリ砲弾を使用するアサルトライフルだ。』

ツダのコックピットの乗り込む、オート操作でライフルを掴みカタパルトに機体を接続する。

「ディアナ・フェルトミナツダ・カスタム、出ます！」

機体がかたパルト射出される、直ぐに先行している味方のジェガン隊に追いつく。

「マリクの分もがんばろう、ハロ。」

マリクは独房に入って今日で三日目だ、明日には復帰する事になる。

<ディアナ、マリク事スキカ？>

なっ、／／／。ハロっ、ボクは君にそんな事教えた記憶は無いんだけど……

その時左から、高機動型のジェガンが横にが来る。

『高機動型ジェガン、ジェガンを高速戦闘用にカスタマイズした機

体、背中にバックパックブースターを装備した、エース向きの機体。

」

《驚いたな、ディアナ君まで出撃するなんて。》

フェリオ隊長が話かけて来る、氣遣ってくれてるのだから？機体が違うのは、ライルにフェニックス・ゼロを壊されたからだ、修理はちかじか拠点惑星レオラに降りてからになるそうだ。

《先に言っておく、この通信回線は僕のプライベート用だ、護衛部隊から敵はジオン残党軍との報告があった君は、何か知らないのか？》

……！！私を疑っているこの人？

「……………私を疑っているの？」

《済まない……………しかし君の本心が聞きたいそれだけさ。》

「衣食住と機体の整備をタダでもらってるのに、遊んでちゃあ悪いでしょ」

<ソウダー、ソウダー、>

と半分本音を言った……………

《わかった……………それと済まなかった、嫌な思いをさせて。》

「気にしなくて、良いよ隊長さん、ジオン系のMSじゃあ疑われなくても仕方がないしね。」

前方に戦闘の光爆が見えて来た、各ジェガン隊やフェリオ隊も各戦闘ポジションにつく。

ルイセSide

全く冗談抜きにしても、笑えない……今時旧ジオンのMSのオンパレード、中古のMS即売会があったら、マニアが束になって群がるかも……

『私の乗る機体は、アレックスガンダム……ニュータイプ用ガンダムで360。モニターに、マグネットコーティングを装備、両腕に三連式90ミリガドリリング砲、ビームライフルとビームサーベルにシールドを装備している。』

『ルイセ小尉、敵MS部隊がジム・コマンド隊を突破した、との報告が入りました。』

オペレーターの報告が入る、まあ民間警備会社じゃあ返り討ちでも仕方が無いか……装備が違い過ぎる。

『ジム・コマンドは、連邦軍主力MSジムの改良型MSでこの時代では民間警備会社のMSとして使われている、ビームガンとビームサーベルにシールド位でもう旧式化しつつ有る。』

モニターを拡大する……敵モビルスーツが見えた！

ザク？改大戦末期旧ジオンが開発し少量産化された機体……機動性だけならリックドムに匹敵するらしい……こちらも戦闘開始だ、民間船はコロンプス級だ非武装の為攻撃を受ければ一たまりもない。照準を絞りザクにビームライフルを発射する、ザクのコックピットをビームが貫通しザクは一撃で吹き飛ばす。

真下に殺気を感じ素早く回避する、90ミリマシンガンの砲弾が襲って来る。

右腕のガドリリング砲を発射する、たちまちザクは蜂の巣に変わる。

「それにしても……何処からこんなに……」

その時緊急の通信が入る。

《大変です別動隊に、輸送船団が……教われています。》

向かおうにも敵の数に押されっぱなしだ！

「くっ……味方は、味方は来ないの？」

《ま、待って下さい！第154戦技教導隊が、援軍に来てくれました！》

フェリオ、イリアさん……て援軍は訓練生！？まあ……来てくれな  
いよりマシだよね？



ディアナSide

「非武装船しか襲わないで根性……叩き直してあげるよ！」

ジムライフルをザク改に撃ちまくる、たちまちスクラップに為る。

《紅いツダ……厄介だな散開しろ！》

たちまち散開をするザク改達……ボク一人じゃ流石に厳しいか……

「チィ……何とか片付ける！」

<ディアナー、フェリオキター>

高機動型ジエガンが次々と敵モビルスーツを片付ける。

《一人で先走るな！ディアナっ！》

「し、ゴメンなさい。」

フェリオ隊長に叱られる、しかし隊長はボクに一言。

《まあその機体について行けと言うのが無理だな。》

確かに各隊は、ゲルググにリックドム……ケンプアーや等を相手にしている。

アイリツシュ級巡洋艦「フィンランド」

エレノアSide

イリア大尉も大変そうやな、よし援護するか……多分別動隊が来てるやろ。

「MS隊出撃準備急げやっつ、ゲタ付きのジャベリン隊は演習艦隊の援護っ、GP01Fb、G04、G05は輸送船団の救助に、フエニックスガンダムは敵空母ドロスの迎撃に迎えっ！」

『ジャベリンはジム系の末裔に当たる機体で、主にザンスカール戦争に旧式ながら活躍した機体、武装はショットランサーにビームライフル、ビームサーベルとビームシールドを装備している。』

『GP01Fbはガンダム開発計画で誕生した試作機だブースタの換装で宇宙用の高機動に換装が出来るガンダムである』

『G04とG05はガンダムの連携戦闘を目的に開発された、G04はメガ・ビームランチャーをG05はジャイアントガドリングを

装備している』

『G06はビームキャノンを装備した砲撃戦を前提に開発されたガンダムである、ガンキャノンを元に設定されており重装甲で機動力は劣るが、火力は絶大だ』

『フェニックスガンダムは最強のガンダムを開発するために開発された、自己再生可能な【ナノ・スキン装甲】に、機体全体がエネルギー弾になる【バーニングファイヤー】等、コストも性能もど外視で作られた、フェザーファンネルに戦艦の主砲クラスのメガ・ビームキャノン4基、ビームサーベル、ビームガンを装備している。』

さて………こちらは輸送船団の後ろに隠れてる、ステルス艦潰そか。

「砲撃手、敵艦主砲の有効射程に入り次第命令待たず撃て！」

「了解しました、艦長。」

さあ、始めよか？遠慮無しやで。

クラップ級巡洋艦（モンタナ）

イリアSide

「対空砲火急いでっ、メガ粒子砲良く狙って撃てーっ！」

「三番艦「ナイルビツシュ」爆沈！旗艦「ユイリン」中破！」

ジェガン隊の出撃の後すぐに、ゲルググ、リックドムの強襲を受けた、Gキャノンが防衛に当たるが数が少ないので対応しきれない。

『Gキャノンはコロニー内の防衛の為に設定された支援型MSだマシんキャノンと連装ビームガンとビームサーベルを装備している。』

「フィーナ中隊が押されています。」

「……モンタナの主砲の射程内に引きずり込みます……」

いくらMSと言えど艦砲に耐えられないはず……なら無茶苦茶でもやるしかない、乗員に退艦命令を出そう……そう決めた時、オペレーターのパメラの声が明るくなった。

「艦長っ、味方のジャベリン部隊接近、敵MSと戦闘に入ります！」

ジャベリン部隊の活躍で次々と敵MSが撃破される。

「生存者の救助なるべく急いでっ。」

「は、はいっ。」

しかし敵空母には逃げられたそうだ……しかも忌まわし兵器【バグ】が確認されたそうだ……

「もう……残党の制圧では済まないかも知れない……」

私は誰に言うこと無く一人呟いた……

同時刻

マーク・ギルダースide

「しかし……こんな隠し玉を用意してたとはな……」

ドロスに近づくと、バグが山ほど出て来た全くなっちゃあいないな。

「そーら、避けてみなっ、ファンネル！」

フェザーファンネルがバグの大群を撃ち落とす、しかし流石は旧ジ  
オンの大型空母だ、恐らく無人艦だな……人の乗っている気配が無  
い。

「いけっつファンネル！」

クレア・ヒースローがフェザーファンネルでバグの群れを片付ける。

「輸送船団はやらせない！」

エリス・クロードがメガ・ビームキャノンのでバグの大元のドロス  
を撃ち抜く、カタパルトを破壊しドロスからバグは出てこなくなっ

た。

「出会った時にこう為るのは予測済みだ。」

さてバグの殲滅の報告を済ませるか。

『バグはコスモバビロニア建国戦争でコロニー内で住人を虐殺した、無人兵器だ円盤状の親バグの中に子バグが内蔵されている、武装はチエーソーと対人レーザーと自爆攻撃で人に容赦無く襲って来る』

さて残りは……居ないな、輸送船団の護衛に回るとするか。

三機のフェニックスガンダムは船団の護衛に向かう。

ディアナSide

ルイセ小尉と合流した時に攻撃を受けかけた、この機体では無理もないか……周りはジオン系だしね。

戦闘はこっちの方が有利になってる、味方のガンダムが援軍に来てくれた、G P O 1 F bにフルバーニアンG O 4、G O 5、G O 6だ流石にガンダムが六来も居ると勝てる気がするルークヤルナは、フェリオ隊長と連携して戦ってる。

<ディアナ、テキセツキン、機種……ギャン改>

『ギャン改、アクシズの開発した格闘戦に特化したMS、高性能のMSに引けは取らなかったが格闘戦重視の設計の為試作機で終わった機体。』

ギャン改がシールドに内蔵された小型ミサイルを撃つて来る、針くらいのミサイルだが数が多いので厄介だ、ツダの機動性を生かして回避する。

その時、敵のパイロットから通信が入る。

《探しましたよ……ディアナ・フェルトルミナ……いや、ディアナ・ザビお嬢様。》

「……………!!」

コイツ……ボクの血筋を知っている……ザビ家、ジオン・ズム・ダイクンを暗殺して、サイド3に【ジオン公国】を造り旧地球連邦に独立戦争を仕掛け数多くの人々を死地に追いやり、スペースノイドが長く辛い弾圧を受けるきっかけを作った呪われた家系の名前……

「今時ザビ家は無いんじゃない？おじさん？」

内心の動揺を抑え、ボクは応える……多分父さんを事故に見せかけ殺したのはこいつ等だ。

《女性<sup>レディ</sup>がおじさんと言うものでは、ありませんね！》

大型のビームサーベルで切り掛かって来る、それをヒートトマホー

クで防ぎ罅ぜり合いになる！

「そう言いながら、女の子に切り掛かって来る、おじさんてどうなの？」

《子供の躰は大人の義務ですよ、ディアナ・ザビ。》

プチ……今度こそボクの頭の中で何かが弾けた。

「その名前で呼ばれるの物凄く不愉快だな……一つ聴くけど、父さん殺したのアンタ？」

<ディアナ、心拍数と脈拍値上昇、レイセイにナレ>

ハ口が心配してくれるが、父さんの敵なら……此处で仕留める……

《ええ……貴女のお父様エドガーさんは私が始末しました、何でもザビ家やジオンは過去の亡霊むかしだとか言いましたので……貴女の事を最後までご心配しましたよ。》

「……貴様ーッ。」

烈しい切り合いでギャン改の装甲に傷が付く、その時敵の口調が変わる。

《こ、小娘がーッ、俺様の機体によくも傷をーッ。》

「そんなに大事なら、博物館に展示すれば？」

一旦下がりが間合いを取る、なんかヤバそうなパイロットだ。



《その紅いツダー旦那がって下さい!》

《……撃つ。》

行きなりG06がビームキャノンを放つ、危ないな!当たったらどうする気だよつ、更に下からG04がビームライフルを撃つ、その攻撃でギャン改のシールドが破壊された。

《チィ……小癩なまねを……》

《ジャストポイント、もーらい》

G05がジャイアントガドリングを浴びせるが、回避するギャン改そこに、Fbが切り掛かり左腕をビームサーベルで切り落とす!

《クソツタレがつ、野郎共引き上げだーっ!》

まるで海賊の様な台詞を吐くと撤退していくジオン残党軍、ボクも一瞬追撃しようか迷ったが、留まる事にする……多分今の通信の会話を聞かれたかも知れない……皆にはちゃんと本当の事を……話そう特にマリクには……そう胸に決め皆とモンタナに帰る。

## 過去の亡霊（後書き）

素性を早い内にバラシたのは、外宇宙に人類が出てくる為です。

この時代地球はかなり遠い存在になっています。

でも思想は未だに根強く残ってます、現実の世界でもかなり昔の事を最近の出来事のように言うのと同じ感覚ですね。

次回頑張ってます。

ディアナの決意とマリクの想い前編（前書き）

投稿が遅れ誠に申し訳ありませんでした。

Gジェネレーションらしく宇宙世紀以外の機体も出したくなり、GジェネレーションFで気に入ってる機体を出しました。

誤字を修正しました。

## ディアナの決意とマリクの想い前編

ディアナSide

皆と共に戦う事にした、理由は、さつき傍受したテロリスト集団【ジオンの魂】の演説だ……

《告げる我々は【ジオンの魂】である、我等の悲願スペースノイドの治世は今日至つても未だに達成されていない、何故なら地球連邦政府の末裔に当たる銀河連邦政府は各植民星の解放や独立を認めないからだ！間もなく我等の志しに賛同する者達や各地で眠れる牙を愚かな圧政を行う者達の首筋に突き立てる同志が行動を起こす、立ち上げれジオンの旗の下にジーク・ジオーン！》

その演説に呼応するかの用に各星間国家やコロニー自治区で反乱が起きる。

「今更ジオンが出て来ても世界は変わらない……むしろ悪くなるだけだよ……」

いずれ此処に居てはあいつ等【ジオンの魂】が来る……ボクは皆に本当の自分の事を話した時の事を思い出していた。

『皆いるね……まず嘘をついてごめんなさい、ボクの本当の名前は、ディアナ・ザビ……あの大虐殺の家系の出身だよ……』

正直……さつきまでジオン残党の海賊化した連中と戦ったんだ……ボクはどんな目に合うか内心怯えていた……

『だいたいの事情は分かった、これから君はどうする気だ？』

フェリオ隊長が口を開きそう言つと他の皆もだいたい同じ意見だった、でもボクは……

『ディアナはどうしたいんだ？一人で連中と戦うのか？』

ルークの一言にボクの頭中は真っ白になった、そんな事は考えていなかった。

『ボクは……父さんの仇を討ちたい……でも……』

『じゃあ決まりね、此処に居ればアイツ等の情報が直ぐに入ってくるよ。』

ルナ……君まで……更にイリア艦長やエレノア艦長まで会話に入ってくる。

『ザビ家でアイツ等何百世紀の昔話担ぎ出したんや、うちらはただの噂話を相手に戦う軍隊やない、あんな過去の亡霊にアンタ自身が振り回されてどうするんや？』

『エレノア艦長の言う通り、貴女はこれからの事は貴女自身で決めなさい。』

皆本当に優しいかった……それだけでも十分だろう……それにマリクも……彼はボクの話聞いてから、ボクを見つめ静かに言った。

『ディアナはディアナだろう？そしてボクはボクだ、君がザビ家の血筋だろが関係無い！もう……過去の人達に縛られるのは君らしく

無いじゃないか。』

『…………ありがとうマリク。』

彼のその言葉に彼の…………マリクの思いが伝わる…………

「…………行くよハ口。」

<ディアナ、ダイジョウブカ？>

「うん、大丈夫だよ」

MSハンガーデッキ

ディアナSide

既に各モビルスーツ隊は各自出撃を始めている。

「ディアナ、ツダの補給が終わったよ。」

「カレン、機体の整備何時もありがとう。」

「うん、どういたしまして 他の機体の整備に手間取っちゃって、でも、その分何時もより念入りにはしておいたからね。」

「カレン、ありがとう。」

「えへへっ、どういたしまして」

《本艦の防衛はジャベリン隊とGキャノン隊そしてフィーナ隊に任せます、フェリオ隊はアステロイド帯の索敵哨戒を！》

《了解です艦長、マリク、ルーク、ルナ、ディアナ行くぞ！》

《《はい隊長！！》》

その時エレノア艦長から通信が入る。

《厭な予感がするわ……フェニックスガンダムを念のためアステロイド帯方向に全部出すで！》

そして系六機のMSを出す我が艦隊は、アイリッシュ級巡洋艦「フインランド」を臨時的に旗艦にした、「ナイルビッシュ」は撃沈、「ユイリン」は中破で戦闘能力が低下している……本艦は負傷者を収容して病傷艦「ナイチンゲール」が来るまで救護活動に人員を割いている。

《頑張つて持ちこたえましょう！》

イリアSide

味方の援軍が来るまでの約二時間が勝負だ、しかし気になる……彼女がザビ家の末裔なら何故、彼等は彼女を攻撃したのだろうか？彼女に聞けば教えてくれるかも知れない……

アステロイド帯

ライルSlide

《たつく、頭は人使い荒いぜ。》

「はははっ、俺もそう思うよ。」

《ライルの言う通りだぜ。》

全く人使いが荒い……逸れに機体を壊れたからって俺達に無理矢理合流して来やがった。

「まあ、アンタ等のリーダーもあの【ガンダム】で機嫌が直るんじやあ無いの?」

ん……この気配……成る程、わざわざ俺の獲物になりに来たか……お姫様?それに、マリクお前もいるな?

「各機、それぞれのポジションに付け、奴らを待ち伏せするぞ。」

《了解》

俺達は手短な石ころに身を隠して待ち構える。

「さあ……来いよマリク……」



マリクSide

この殺意……ライルか？場所は……まだ距離は在るけど、もう向こうに気付かれている……。

「隊長、気をつけて下さい！ライルがいます！！」

こちらに放たれる殺気が強い、ライルしかない。

《え……あの黒いガブスレイが！？》

「多分ライルだ！間違いないよつ。」

ルナの言葉に確信した間違いない、ライルか海賊のどちらか……あるいは両方が居る……フェリオ隊長に通信を開き説明する。

《解った、マリクこの前見たいな事は絶対にするな、良いな？》

「了解です、隊長」

確かにあの時の真似は出来ない……あの時はディアナの危険を感じ取ったからだ……しかし今感じるのは僕に向けられる殺気だ……

後方からフェニックス・ガンダム隊が応援に駆け付けて来た。

《さて、始めるとするか？》

《大賛成》

《待って下さい！》

エリス少尉が僕達を引き止める……何があつたんだろう……

異質な気配を周りに感じる、フェニックス・ガンダム隊は既に戦闘体制に入っている。

周りの空間が少し歪む……やがてシルエットが現れる……イフリート・ナハトだ。

『イフリート・ナハトは旧ジオン軍陸戦型MSイフリートのステルス型MSとして開発された、三連式連装マシンガンに二刀のコールド・クナイにコールド・ブレードを装備、格闘戦に特化した機体だ、地上仕様を宇宙用に改良されて、ジャミングシステムの他光学迷彩を施されている。』

《なるほど……伏兵か？》

《MDだよ！こいつ等モビル・ドール》

《フェリオ隊の皆さんは先に先行して下さい。》

《了解した、ルーク・ルナ・マリク・ディアナ行くぞ！》

《《了解！！》》

確かに無人型MSとも言えるモビル・ドールの相手は難しい、此処

は彼等に任せライル達の撃破を優先しよう。

ツダが6機現れる、イフリート・ナハトは16機……フェニックス・ガンダムがいなければ……と考えゾツとした。

《各機、戦闘開始せよ!》

《クククツ、ただのモビル・ドールと思うなよ……》

不気味なパイロットの通信が入るしかし、フェニックス・ガンダム隊の敵では無いはずだが……

(嫌な予感がする……)

《マリク!よそ見してる場合かよ!》

ルークの声にハツとなる、ツダが迫って来る、良しアレを使うぞ、ダミーバルーンを射出して、素早く石ころの影に隠れる。

ハイパーバズーカを構える……ダミーバルーンが二・三個破壊される。

《バカヤロー、ダミーなんかにもダ弾撃ち込みやがって……》

《ヤロウ……何処に行きやがった?》

辺りを警戒して動きを止める……チャンスだ!躊躇わずにハイパーバズーカの散弾を見舞う、一機は直撃を受け爆散しもう一機は片腕を吹き飛ばされて、なおも向かって来る。

「この、墜ちろーっ!」

ツダのコックピットにビームが直撃し爆発する、岩影から敵が出て来る、あの黒いガブスレイもいる。

「ライル……」

《マリクーツ、覚悟しな!》

ガブスレイの指先に仕込んだ電磁ワイヤーを全部放って来る、それをかわし素早く、ビームライフルで反撃する。

《前と違って、トレーニングをしたのか?》

「ライル君は僕を倒したいのか……」

何故とは聞かない……ライルはニュータイプ狩りの時に家族は、皆ばらばらになってしまった、僕は家族から無理矢理引き離され【ネズミ小屋】にほうり込まれた。

《あの時はオマエにニュータイプ能力が有るとは思わなかったな、けど今じゃあ俺が上だな、》

フェーダインライフルを放って来るライル、お互いに決定打がない。

(ライルは僕が止める絶対に……)

ルークSide

ライルとマリクが戦ってる時に、フェリオ隊長はフェニックス・ガンダム隊の援護に入る、あのイフリート・ナハトはモビルビットらしい、モビルビットはサイコミュ兵器の一種でモビルスーツ版のフアンネルだ、厄介過ぎるな。

《ルーク！気をつけて未確認機が接近中！》

「なっ、黒いガンダム!？」

《ネオ・ガンダムの性能見せて差し上げますよ》

『ネオ・ガンダムは、シルエットフォーミュラで得たノウハウを結実させたアナハイム版のF91とも言える機体である。武装は60ミリバルカン砲・ビームサーベル・【G・B・R・D】通称Gバードと呼ばれる戦艦の主砲クラスのビームライフルを装備している』

そのネオ・ガンダムが何故、此処にいるんだ。

「くっ……ヘビーガンじゃあ……正直きついな」

《ルーク、弱気に鳴らない私達で何とかしましょう》

ルナがスナイパーライフルで仕掛ける、それに合わせて俺が先手を取る……ガンダム相手なら速攻で仕留めるしかない。

《ガンダムと量産機の違いを教えて差し上げましょう》

「そう、簡単にやらせるかよ！」

ビームライフルを放つがガンダムのビームシールドに防がれる、ガンダムのビームサーベルが、ヘビーガンの頭部を斬り飛ばす、メイ  
ンモニターがやられた。

「ちっ……」

グレーネードを自爆覚悟で使うか？そんな考えが頭を過ぎる……

《ルークを死なせはしない！》

スナイパーライフルで必死にガンダムを追い払おうとする、ルナしかし彼女のジエガンも、いたぶる様に破壊される。

「ルナーっ、に、逃げろっっ」

気付けば彼女の名前を叫んでいた。

ルナSide

いきなり黒いネオ・ガンダムに切り刻まれて、アタシのジエガンは戦闘不能になった……ディアナのツダも敵のツダを三機を相手に戦っている……マリクはあのガブスレイの相手で精一杯でこちらの援護に回れない。

「完全に行動不能……」

《……ル……逃げ……》

ルークの声が聞こえる、通信機が壊れてルークの声をよく拾えない。ノイズ混じりのモニターにGバードを構えるガンダムが見えた。

(脱出は無理か……)

その時、白いモビルスーツがアタシのジェガンとネオ・ガンダムの間に入る。

そして眩しい閃光が迫って来る……

《後ろのジェガンのパイロット聞こえるか？これよりメガキャノン  
を発射する》

物凄いビームエネルギーが、ぶつかり合いそして相殺された。

《ミリア……貴様！》

《Gバードとメガキャノンの相殺か……ドドリゲス良いスポンサー  
が付いたか？》

メガキャノン？まさか……トールギス?!?

「トールギス？はトールギス？と兄弟機として開発された高機動モ  
ビルスーツでその機動性は人類最後の有人モビルスーツと言われて

いる機体だ。武装はバルカン砲・ヒートロッド・そしてウイング・ゼロのツイン・バスターライフルに匹敵する』

ミアア……まさか、あの宇宙海賊【シルバーキャット】の女首領が何故此処に……そんな事よりルークは？

《君の寮機なら、綾人が救出した……それより》

敵のガンダムを見据えてトールギス？が対峙している。

《人の縄張りを荒らした代償は高く付いたな？》

と低い声で言い放った。



ディアナの決意とマリクの想い前編（後書き）

次回後編頑張ります。

## プロフィールNo.2(前書き)

プロフィールを更新しました。

他のキャラのプロフィールの考えがまとまり次第プロフィールを更新致します。

カトラス様とレフェル様にキャラのご使用のご許可を頂きました。

## プロフィールNo.2

神薙綾人

性別：男

年齢：17歳

髪：紫

瞳：赤

口調：俺

性格

熱血

フロント・カスタム

見た目 フロントの左目に眼帯型のロックサイトを装着、左腕がフック船長のようになっており、ABCマントをエクシアリペアのよ  
うな感じで着ている。

武装 頭部バルカン×2・胸部バルカン×2・120mmマシンガン・ビームザンバ・ヒートダガー×2・アンカーフック・ブンラ  
ンドメーカー（ビームシールド）

機体概要

フロントにクロスボーンガンダム系の余剰パーツを使い綾人独自の考えで改造・修理した機体。ビームサーベルは廃した所にヒートダガーを搭載している。左腕のフックはアンカーとして使用することが出来るためトリッキ・な戦術で戦うえるが、その為左腕にはビームシールドが搭載されていないのでABCマントでそれを補っている。  
(神薙綾人の機体はカトラス様のご提案です。)

ミオ・シユルム

コードギアスのカレン  
外見

髪：青で白いバンダナを巻いている

年齢17歳

瞳：赤

口調：私

性格

元気娘

趣味

ネット通販

好きな事

嫌いな物

発作の苦しみ

キャラ紹介

元【ネズミ小屋】の実験体の強化人月。

激痛を伴う発作を起こすため症状を抑える薬を飲んでいる。

ツバサとはライバル。

ツバサ

外見グローランサーのモニカ

性別：女

瞳：緑

口調：私

性格

楽しい言が大好き娘

嫌いな事

暇な状況

好きな事

楽しい事

キャラ設定

気に入らない相手に指図されるのが嫌いでミオとは仲の良いライバル。

エリック・ハルト

外見スバロボOGのリュウセイ・ダテ

性別：男

年齢17歳

髪：黒

瞳：青

口調：俺

性格：熱血

趣味

モビルスーツの魔改造

好きな事

パーツ集め

嫌いな事

パーツを捨てられる事

キャラ紹介

宇宙海賊【シルバーキャット】の旗艦「アルテミス」でモビルスーツの整備士をしている、マッドな姉が何処かに居るらしい……

プロフィールNo.2(後書き)

次回後編頑張ります。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7551w/>

---

外宇宙世紀ジェネレーション

2011年10月31日16時24分発行